

理系の学問にはとんと弱いのだが、「探究」の文字にひかれて本書を手にした。探究的な学習は子供たちが未来を切り拓くために必要な資質・能力を総合的に身に付けるための中核的な学びである。基礎科学において探究がどのような意味を持つのか、その精神や実際を学んでみたいと考えたわけである。

門外漢なので著者を全く存じ上げなかったのだが、理論物理学、素粒子論、超弦理論研究の大家だという新聞などでは「爽やかな天才」「これほどのスケール感の学者は唯一無二」「突き抜けた知性」などと称されている。その意味は、本書を読んでみると、専門的なところが分からなくても実感する。とにかく広く深い。だのに本文は分かりやすく、興味深く、楽しく一気に読めるからありがたい。

小学5年生の頃、展望レストランから地球の大きさを測った。絵を描くときにまず引く「輪郭

### 探究する精神 職業としての基礎科学



大栗博司 著  
1056円 幻冬舎新書  
☎03-5411-6211

線とは何だろ?と考えた。自由研究が大好きで、大きな本屋が遊び場だった少年が、どのようにして天才と言われる学者になっただろうか。探究する努力が才をつくり出したことがよく分かる。

応用化学と比べて役に立たないと言われる基礎科学。わが国でも先細りが懸念されている。しかし、社会と基礎科学の関係を歴史的に詳しく論じている第4部を読むと、それが誤りであることが納得できる。測る物差しが違うのである。

本書は科学の好きな人にもちろんだが、基礎科学、物理学が苦手な人でも楽しく、ワクワクしながら読める。特に文系、理系に関係なく中学生、高校生にも読んでもらいたい一冊である。(教育調査研究所・寺崎千秋)

これは、若者の選挙投票率が8割を超えるスウェーデンの教育政策や余暇政策を詳しく解説した本である。

スウェーデンの学校では、生徒組合や学校選挙などによって、民主主義を教えている。だが、それ以上に若者が影響力を行使できるのは、若者の7割が参画する若者協議会や政党青年部などの「若者団体」によるところが大きい。この団体は、若者に関する政策に参画する機会が与えられる。その結果、若者の声が反映され、「若者による影響力」が発揮されて初めて政策が評価される。それがこの国の民主主義の根幹をつくっていると著者は言う。



もう一つ、この国の若者政策で重要なのが「ユースセンター(余暇活動施設)」である。もともとは若者たちが新しいことに

### 若者からはじまる民主主義 スウェーデンの若者政策



両角達平 著  
2200円 明文社  
☎03-3221-9008

そのような状態では、若者の主体性を尊重した社会参加の促進には到底進めないのだ。為政者や支援者は、スウェーデンのように若者の自治や参画、団体活動の促進という大局的な戦略を進める必要があると評者は考える。

(前聖徳大学教授・西村美東士)

打ち込める機会を提供する「集いの場」として導入された。1970年代には、施設内での若者の飲酒などによる問題で活動の質の低下が目立ったが、それでもユースセンターは若者による社会的な問題を防止する役割を持つとして評価された。その後、80年代には若者が施設の運営に参画するようになって、自治の機能を高めた。

かつて青少年施設に勤めていた評者から見ると、この「器の大きさ」はうらやましい限りだ。わが国では、施設内で若者の小さな非行があると、議会や世間から叩かれ、非行の駆逐だけが求められる。